

秩父宮ゆかりの場所

高瀬 雅弘

(弘前大学教育学部部長)

2025(令和7)年1月、明治神宮外苑地区の再開発にともない、日本ラグビーの聖地のひとつである「秩父宮ラグビー場」に代わる新ラグビー場の整備計画が発表された。1947(昭和22)年の建設時は「東京ラグビー場」という名であったスタジアムは、1953(昭和2

8)年に日本ラグビーフットボール協会名誉総裁であり、「スポーツの宮様」として親しまれた秩父宮雍仁の薨去を受けて現在の名称となった。

その秩父宮は、今から遡ること90年前の1935(昭和10)年8月10日、歩兵第三十一聯隊第三大隊長(歩兵少佐)として弘前に赴任した。1928(昭和3)年には大鰐スキー大会参加のため来県したこともあり、かねてから弘前市民はもとより青森県民に広く親しまれていた天皇の弟宮の来弘には、弘前市を中心に県を挙げての歓迎が行われた。

菊池別邸と藤田別邸の实地検分が行われ、7月1日に紺屋町の菊池別邸が「御仮邸」に決定した。

この場所のもと弘前藩家老の津軽薫(菊池楯衛らによる津軽果樹研究会のメンバーであり、高照神社の社掌となった)の屋敷跡で、総坪数5,200坪、建築の総坪数は150坪であった。それでも秩父宮の住まいとしては手狭であるということで、居間として洋室1、浴室、化粧室、手洗所、随員の居間、化粧室等の増改築が行われた。

菊池別邸には、池田亭月の作庭によると推定される大石武学流庭園が設けられており、秩父宮夫妻もまた日々、この庭園の四季の移り変わりを眺めていたことだろう。

1936(昭和11)年12月7日、秩父宮は参謀本部第一附に転補となり、弘前を離れた。滞在期間は約1年4か月だった。12月11日、前日までに御用品が発送され、「御仮邸」は再び菊池長之に引き渡され、菊池別邸へと戻った。

に広く親しまれていた天皇の弟宮の来弘には、弘前市を中心に県を挙げての歓迎が行われた。

青森県に秩父宮転補内定の情報がもたらされたのは6月27日、翌日には弘前市長や警察署長が参集を求められ、宿舍候補地の検分が要請された。赴任までの準備期間は1か月ほどしかなかった。候補となったのは、菊池長之(業種商)別邸、藤田謙一(実業家)別邸(現在の藤田記念庭園)、高谷英城(銀行家)本邸の3か所で、このうち

作業は地鎮祭7月6日、竣工8月5日というスケジュールで進められ、8月8日の修祓式では所有者である菊池長之立ち会いのもと、邸宅と付属品の引き渡しが行われた。そして8月10日午前8時52分に弘前駅に降り立った秩父宮夫妻は、そこから自動車で同9時8分に「御仮邸」に到着した。ちなみに宿舍が正式に「御仮邸」と呼ばれるようになったのは8月4日のことである。

秩父宮はこの「御仮邸」から歩兵第三十一聯隊(現在の弘前実業高校の場所)まで、通常は自動車で出勤したが、豪雪時には得意のスキーで通勤したという記録も残されている。

秩父宮夫妻が滞在した建物は失われたものの、庭園は今日まで残され、2007(平成19)年7月には国登録記念物に登録されている。しかし少子化の進行により、弘前市の星幼稚園は2026(令和8)年3月31日をもって閉園することが発表され、今後のゆくえが注目される。弘前にある秩父宮ゆかりの場所もまた、変化の時期を迎えようとしている。



御仮邸庭園=1935(昭和10)年頃『秩父宮殿下御在県記念誌』(青森県所蔵県史編さん資料)より転載